

起業会存廃問題関係建議

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00001213

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



起業会存廃問題関係建議

奥田晴樹

金沢市史編さん委員会編『金沢市史』資料編12 近代二（金沢市、二〇〇三年三月）には、前田育徳会尊経閣文庫が所蔵する旧金沢藩士族の授産事業に関する文書が収録されている。しかし、士族授産事業の審議機関である起業会や、同会の存廃問題をめぐって旧藩主前田家に寄せられた建議類は多数にのぼり、前掲書に収録されたのはその一部に止まる。ここでは、鉄道建設事業の発起に伴い生じた起業会の存廃問題（前掲書拙稿解説二七七～二七九頁を参照）に関する建議類を、紙幅の許す限り、以下に紹介したい。

なお、収録にあたって、出典の異体字や俗字は常用漢字ないし正字に、合字は平がなまたは片カナに、それぞれ改めた。

1 明治14年9月17日 島田辛一郎、鉄道延布之儀に付き建言

鉄道延布之儀ニ付建言

辛一郎頓首百拝

謹テ一書ヲ奉呈ス、竊ニ聞ク今回鉄道延布ノ挙アルヲ以テ金沢ニ至ラセラル、ヤ我北陸人民ノ日ニ衰替ニ赴クヲ憂慮セラレ其主トセラ

ル、所専ラ運輸ノ便ヲ開キ殖産ノ道ヲ興サル、ニ在リト、夫加越能三州ノ人民旧恩ニ浴スル已ニ久シ、時運変遷今ヤ明治ノ聖治ニ遭遇シ 天恩ノ隆渥加フルナシト雖トモ豈又積年ノ旧沢ヲ忘ル、アランヤ、恭シク惟ルニ東北鉄道会社創立ノ盛意タル斯土ノ士民ニ愛憐ヲ垂レ茲ニ巨額ノ資ヲ捐シ率先起業ヲ奨励セラル、実ニ感泣ニ堪ヘサル所ナリ、微賤辛一郎夙ニ運輸ノ便否ニ関シ鄙見ノ在ルアリテ明治十一年八月 聖駕ノ北巡ニ際シ書ヲ右大臣岩倉殿下ニ呈ス、其要ニ云、地方ノ盛衰ハ物産ノ多寡ニ由ル、物産ノ多寡ハ運輸ノ便否ニ関ス、蓋シ運輸ノ便ヲ開クトキハ其産出スル所ノ物件各地ニ流通シ其利用価格ヲ失ハス、故ニ殖産ノ利源ハ職トシテ運輸ノ便ヲ開クニ係ルヲ痛論セリ、廟謨ノ深遠敢テ何知ルヘキニ非スト雖トモ当時新潟港ヲ廢シ伏木・七尾両港ノ一ヲ開港セラルヘキ内議アルヲ聞クヤ開港ノ事タル我國權ニ於テ利害得喪ノ関スル至大ナルヲ以テ尋テ政府ニ建言セリ、其要旨タル我能登国ハ北陸ノ北陲二位スト雖トモ南北海ニ面シ東加越ニ壤ヲ接シ水運至便ノ地ニシテ七尾湾ノ如キハ天然ノ良港、東西一里五町・南北二里八町、海岸最浅ノ所五尺、最深ノ

所十二丈五尺、巨艦大船百艘ヲ泊スヘク越後・羽陸・北海道ノ運輸最モ便ヲ得、土地ノ天産亦鮮トセス、且七尾湾ノ我国ニ緊要ナル旧政府既ニ開港ノ目的アリテ慶応三年英仏ノ軍艦ニ命シテ港内ヲ測量セシム、其実測図面、湾ノ広狭深淺暨ヒ暗礁ノ位置等詳明ヲ究ムルモノニ葉伝ヘテ石川県庁ニ存置ス、維新ノ後、七尾湾ニ造船寮ノ置カル、当時辛一郎職ヲ本県ニ奉シ該図ノ造船寮ニ必須ナルヲ知り前県令内田政風ニ請テ其一葉ヲ寮員桐野某ニ送致セリ、万一北海有事ノ日ニ方リテハ軍艦ヲ修理スル七尾湾ヲ捨テ、他ニ良且便ナルノ地アルヲ見ス、大政府此寮ヲ此港ニ設ケラル、蓋シ亦此意ニ外ナラサルヘシ、然リ而シテ廟議一變遂ニ此寮ヲ廢セラル、ニ至ル亦如何トモスル事ナシ、越中国亦海ニ面シ伏木港ノ如キ多少船舶ヲ泊スヘシト雖トモ小矢部・庄川ニ水ノ流末港口ニ深淺常ナラス、万一河水漲流シ烈風海ヲ捲クニ方テハ怒浪^(患)狂瀾忽焉トシテ起リ船舶為メニ覆没スルモノ古來其例尠シトセス、三菱汽船ノ如キ錨ヲ拔テ颯ヲ七尾湾ニ避ルカ如キ猶新潟ノ泊船難ヲ小木港ニ避ルト一般是伏木港ノ七尾湾ニ如カサル畜^(有)宵壤ノミナランヤ、以上開港ノ事ニ付テ建言セシ所ノ大略ナリ、抑我北陸ノ地方水陸運輸ノ便ヲ開クハ辛一郎力素志ニシテ岩倉殿下ニ開申スルト政府ニ建言スルト一ニ人民ノ公益ヲ謀ルニ外ナラサルナリ、然ト雖トモ凡事業ノ目的タル一ヲ達シテ一ヲ達セサルハ一般ノ通弊ナリ、今試ニ之ヲ論センニ天然ノ良港アルモ運輸其便ヲ得サレハ其益大ナラス、運輸便ヲ得ルモ輸出入ノ道開ケサレハ独リ内地ノ便ニ過ス、内地ノ便ニ過サレハ貿易互市ノ道狹隘ニシテ殖産ノ利源塞ル、故ニ起業ノ目的ニ於ケル内外ノ事情ヲ審

ニシ体用相失セス、一挙兩得ノ方ヲ期セシムハ得策ト云ヘキニ非ス、今ヤ東北鐵路布設ノ挙アル遠ク江越ノ国界ヨリ越中富山ニ達スルノ線路ヲ定メラル、北陸ノ至便固ヨリ公衆ノ渴望スル所内地ノ形勢ニ於ケル亦間然ナシ、然ト雖トモ運輸ニ便アルハ殖産ノ道ナカルヘカラス、特リ内地ノ便ヲ開テ貿易互市ノ道開カスハ其規模宏大ナルモ其目的狹隘ノ歎ヲ免カレサルヘシ、是レ其他ノ線路ハ親シク实地ヲ臨檢シ追テ定メル、ノ余地アル所以ナランカ、夫レ能登ノ國タル峻山重疊土地大ナラサルモ海運ノ便ニ至テハ七尾湾ノ如キ北海無ニノ良港アリ、苟モ陸地ノ便ヲ得ルトキハ羽陸・北海其他ノ商船日ヲ逐テ來船シ北陸・東山ノ物産四方ニ輸出シ貿易互市ノ利愈興リ殖産興業ノ道蓋盛シナルヘク況ヤ向來開港場タル機アラハ益以テ盛昌ヲ見ル遠キアラサルヘシ、依テ今回布設セラル、鐵路一ノ支線ヲ付シ七尾港ニ達セサルヘカラス、嘗テ聞ク鐵道ノ數州ニ連亘シタル事業ハ非常ノ起工ナルヲ以テ着手ノ順序ヲ審ニセスハ竣功ノ目的ト費額ノ用度ヲ誤ル事鮮カラスト、故ニ地勢ノ便否暨ヒ土地ノ盛衰ニヨリ或ハ支線ヲ先ニシテ本線ヲ後ニスルアリ、海路便ヲ得テ輸出危險ノ懼ナク、陸路便ヲ得テ輸入留滞ノ憂ナケレハ其他タルヤ夥多ノ福利ヲ享ルハ自然ノ理ナルヲ以テ業ヲ起スニ至リテモ輸出入両全ノ利ヲ受ヘキ地ヲ以テ着手ノ始トセサルヘカラス、七尾湾ノ如キ天然ノ良港ト雖トモ陸運ノ便ナキヲ以テ依然尚旧態ヲ一新スルニ至ラス、一旦鐵路ノ至便ヲ得ルトキハ數日ヲ出スシテ巨大ノ利ヲ見ルハ信シテ疑ハサル所ナリ、工業着手ノ順序ニ至テハ微賤辛一郎敢テ口吻ヲ容ルヘキ分ニアラスト雖トモ支線ヲ布カル、トキハ本線ニ

夥多ノ利益ヲ生シ其主トセラル、所殖産ノ道ニ於テ著シク偉功ヲ奏スヘキヲ信ス、依テ謝劣ヲ顧ス尊嚴ヲ冒シテ鄙見ヲ上陳ス、仰願クハ積年ノ微誠幸ニ採扱アラン事ヲ、誠恐誠惶頓首百拜

明治十四年九月十七日

石川県能登国七尾大手町十三番地居住士族

島田 辛一郎 ㊦

一書拝呈仕候、時下益御清康ニ御奉務奉賀候、陳ハ今回別紙建言仕度、尤御旅館へ出頭可捧呈答ノ処、頃日病氣ニ付、不得已郵達ヲ以テ奉指上候、文中不都合之義モ御坐候得共積年ノ素志打捨置キ難ク何卒 御前可然御取成御上申被成下候様、奉願候也

明治十四年九月十七日

石川県能登国七尾大手町十三番地居住士族

島田 辛一郎 ㊦

御随行

御家令
御家扶

御中

2 明治14年9月 前田孝和ら、前田家々政に付き鄙見上申書

(表紙)

建白

前田 孝和等 一

鄙見上申書

伏シテ以ミルニ御家政ノ義ニ付前般来旧藩士中往々彼是申立驚然タルヲ以御家令扶等甲倒レ乙起リ底止スル所ヲ知ラス、是他ナシ確乎タル御家則未立ニヨリ容易ニ變動ヲ来シ候義ト愚察仕候、依テ管窺ヲ揣ラス聊カ存寄ノ趣ヲ奉具申候

夫レ御家令扶徒等御雇入撰挙方ヲ初メ諸事御内政向ノ義ハ元八家ノ面々へ更ニ御世話方御依頼ノ御内命ヲ賜ハリ元八家ニ於テハ御内議ニ適スヘキ者ヲ相撰ミ人員ヲ定メ之ヲ御家ノ監督トシ名ヲ御監家ト称シ特命ヲ以御内用ニ加リ篤ク協議尽力仕ル事ニ相成候へハ御家政ノ御地盤ハ勿論是ヨリシテ他ヨリ御内家へ立入軽率ノ挙動仕候様ノ義ハ漸々相止ミ可申御家令扶等モ浮薄ノ取扱ヲ以不都合ニ類シ候施行方モ自然ニ出来不申、如斯ナレハ 公ノ御安心ハ不及申旧藩士民一同安堵仕行々御家隆盛ノ御基礎モ相立御外聞モ宜シク実ニ御洪福ト奉存候、何分無比ノ御大家ノ御事ニ候へハ御家令扶等ノミニテハ何歟事情モ通シカ子連年多少ノ過失ヲ免カレス、之レカ為メ或ハ紛議ヲ興シ動モスレハ御面倒ノ憂有之、夫レニ付、幾度御家令扶御取替ニ相成候トモ其效驗無覺束幸ニ今度御下県ニ付、不押立様御家政更張ノ御所置可被為在好機会ト奉存候、偕又旧藩士ハ孰レモ 御父祖様へ勤勞有之者ニテ就中元八家ノ面々ハ勲功アリシ世臣ナレハ八家ハ不及申諸士ニ至ルマテ旧誼ヲ被思召親シク待遇被為在度免角人情輕薄ニ流レヤスキモノナルニ況ヤ百余里ヲ隔ツレハ 思召ニハ替ラセラレストモ自然御疎遠ノ色アリテハ孰レモ恐縮逡巡シテ所懷ヲ尽サス様ニ至リテハ 御祖宗様以来數百年ノ御恩威一朝ニシテ地ニ落チ旧御藩士ニ於テモ御厚恩ニ報フル所ヲ知ラス、唯夕号泣シテ退

カンノミ、該士族中才不才ノ異アリト雖、御家ヲ想フノ深キ昔日ニ
 毫モ異ナル事ナシ、故ヲ以恩顔恩諭何カニモ御親シク待遇被為在度
 御事 右今般親シク拜謁ヲ得、忻喜ノ至、苟モ思フ所アレハ敢テ申
 サスンハアラス、謹ンテ概略數言ヲ呈上ス、惟希ハ澄矚是祈ル、恐
 惶頓首

明治十四年九月

前田 孝 和
 西尾 彝 倫
 三田村 定形
 前田 孝 央
 生駒 義 直
 藤田 正 明
 横山 隆 晴
 里見 宇 撲
 中川 忠 良
 岡島 喜太郎
 高島 成 行
 服部 知 斉
 杉山 延 群
 伊勢 貞 良
 上坂 千 景
 高田 省 吾

3 明治14年9月 神尾昭太郎、起業会解散に付き建言

謹テ書ヲ 前田利嗣公ノ閣下ニ呈ス、夫レ人ニシテ信ナク仁ナク且
 智ナキトキハ則チ一日モ此ノ球上ニ独立スル能ハス、何ソ大業ヲ起
 シ大事ヲ為ヲ望ンヤ、閣下信アリ仁アリ且智アリ、而シテ去年ハ
 起業会ノ大事ヲ起シ今歳ハ亦タ鉄道会社創立ノ大業ヲ出願セラル、
 此二挙ハ世人カ稀代ノ義事ナリト賛揚シテ止サル所口ナリ、然リ而
 シテ嘗テ或人ノ説ク所ヲ聞クニ曰ク今度鉄道会社発起中へ加入セラ
 レシニ付、起業会ヲ解散セラル、ノ命アリタリ、実ニ意外ノ事ナリ
 ト、昭太郎以為ラク或人ノ言ハ蓋シ無根ノ浮説ナラン、夫ノ起業会
 タル惟新以来世態一変シ而シテ士人ノ常職ヲ解レ從テ其家禄モ亦タ
 一片ノ公債ト化シ之ニ加フルニ頻ニ物価ノ騰貴ニ遇ヒ今ヤ士族十中
 八九ハ朝夕芻米ノ資是急ナリ、其甚シキハ今日ノ口糊ヲ為ス能ハサ
 ル者アルニ至リタリキ、閣下ノ英明ナル早ク旧金沢藩士族ノ此ノ
 貧状ヲ憫察セラル、ノ仁慮ヨリ此ノ会ヲ開設セラレタル者ナリ、而
 シテ其会ニ於テ未タ些少ノ結果アラス、豈ニ俄然起業会解散ノ命ア
 ランヤト、然リ而シテ頃日聞ク所ニ因レハ実ニ此ノ命アリタリト、
 是蓋シ 閣下ノ真意ニアラス、閣下左右ノ過誤失錯ニ出シ者ナラ
 ン、士族ノ貧状ハ業已ニ 閣下ノ熟知セラル、所ナリ、伏テ願クハ
 士族ヲシテ邦国ノ為メニ起業シ自己ノ為メニ殖産シ以テ坐食ノ大責
 ヲ免レ一家ノ生計ヲ全セシメ彼ノ起業会ヲ存置シ其起業ヲ補助シ而
 シテ 閣下ノ仁慮ヲ貫通セラレン事ヲ或人ノ曰ク今度鉄道会社発起
 中へ加入セラレタルハ即チ士族ヲシテ鉄道ノ業ニ就カシメンカ為メ

士族ニ率先シ此ノ大業ヲ發起セラレタル者ニシテ彼ノ二十有余万円ハ其補助ナリト、此ノ言ヤ事ヲ解セサル輩ノ語ナリ、抑モ今度出願セラレタル鉄道ノ業タル之ヲ間接ニ利益ヲ蒙ムルト云ヘハ則チ可ナリ、之ヲ直接ニ旧金沢藩士族ノ起業ナリト云フハ則チ不可ナリ、如何トナレハ發起人中已ニ旧富山藩主・旧大聖寺藩主ノ両閣下、越前ノ旧藩主及ヒ両大谷法主アリ、豈ニ是之ヲ称シテ単ニ旧金沢藩士族ノ起業ナリト謂フヲ得ンヤ、且夫去年ハ起業会ヲシテ旧金沢藩士族ノ事業ノ興廢ヲ議セシメント明言セラレ今歳ハ之ヲ其会ニ問スシテ旧金沢藩士族事業ヲ興廢セラル、ノ理アラシヤ、或人ノ言ノ如クハ閣下自ラ規則ヲ立テ自ラ規則ヲ破ラレタル者ト謂ハサル可カラズ、昭太郎ハ信ス、閣下苟モ一度ヒ起業会ニ於テ其興廢ヲ議セヨト明言セラレタル以上ハ斯ノ如キノ失挙ナキヤ或人ノ言ノ如キハ濫リニ閣下ノ衷情ヲ推量シテ誣言ヲナス失敬ノ奴ナリト評セザラント欲スト雖トモ得ヘカラサルナリ、万一閣下左右ノ過誤失錯ニ因リ或人ノ言ノ如クニシテ起業会ヲ解散セラル、トキハ畜ニ信ヲ世人ニ失セラル、ノミナラス、復タ旧金沢藩士族就業ノ時機ノ来ラサルヲ深ク憂懼スルナリ、閣下少シク意ヲ茲ニ止メラレン事ヲ乞フ、又此ノ頃世人ノ鉄道会社ノ事ヲ談スル者ノ言ヲ聞クニ甲曰ク何ノ某等ハ已ニ東京ニ於テ鉄道会社ノ委員ニ命セラレタリ、又將ニ左右ノ推薦ニ因リ何ノ某等モ亦タ委員ノ列ニ加ヘラレントスト、彼等ハ品行方正ナラス、而シテ俗ノ所謂ル山師ナリ、若シ彼等ヲシテ鉄道会社金円出納等ニ關係スルカ如キコトアラシメハ我輩ハ彼ノ会社ニ加入スル能ハサルナリ、閣下彼等ニ委員ヲ命セラル、ハ果シテ如何ノ卓

見アセラレテ然ルヤ、竊ニ閣下ノ為ニ危ムナリ、乙曰ク彼等ハ旧忠告社ノ一党ナリ、而シテ予テ聞ク北海ニ氣船ヲ浮ヘント欲スル等ノ素志アリト、今度彼等ハ委員ノ列ニ加ハルヲ幸トシ鉄道会社金円運轉ノ間ニ居リ其素願ヲ達セント欲スルノ志ナキヤ保シ難シ、誠ニ危カナ、然レトモ上ニ閣下ノ英明アリ会社ニ規則アリ委員ニ權限アリ彼等其事ヲ為サント欲スルモ亦タ得ヘカラサルカ如ト雖トモ彼等強テ言ヲ設ケ巧ニ其事ヲ為サント欲スルモ亦保シ難シ、聞ク昔者生魚ヲ鄭ノ子産ニ饋ル者アリ、子産校人ヲシテ之ヲ池中ニ放タシム、校人私ニ之ヲ烹テ反命シテ曰ク始メ之ヲ放テハ則チ圍々焉タリ、少焉スレハ則チ洋洋々如タリ、悠然トシテ去ルト、子産曰ク其所ヲ得タルカナ、其所ヲ得タルカナト自ラ其欺レタルヲ知ラサルナリト、人ヲ欺クニ其道ヲ以テスレハ誰カ得テ欺カレサランヤ、彼等ハ才ハ則チ才ナリ、然レトモ委員ニ當ツヘキ人ニアラス、何ソ忠厚直実ノ人ヲ採用アラサルヤト、甲談シ乙説キ誰カ其是ナルヲ知ラス、然ト雖トモ世人ノ信ヲ彼等ニ置カサル至リテハ皆ナ同一ナルニ似タリ、昭太郎以為ク彼等ハ皆才子ニシテ細行ニ拘ラサルノ人ナリ、故ニ前ノ如キ比評ヲ受ルヲ免レスト雖トモ彼等ハ宜シク委員ニ命セラ

(一)ラ脱カ
(二)脱カ
(三)脱カ

ルヘキノ人ナリ、然レトモ独リ彼等ノミヲ以テ委員トセラル、ハ蓋シ会社十金ノ利ニアラサランカ、願クハ他ノ忠厚直実ニシテ彼等ニ相對スヘキ人モ亦委員中へ採用シ業務ニ從事セシメラレン事ヲ、然レハ則チ世人ハ鉄道会社ヲ信用スルニ至リ会社モ亦不利ナルナキニ庶幾ランカ 閣下少シク意ヲ茲ニ留メラレン事ヲ、若シ忠厚直実ノ人ヲ委員中へ採用セラル、モ亦タ彼等ニ對等スヘキ才力ノ人ニアラ

サルカ又ハ独り彼等ノミヲ以テ委員トセラル、カ如キコトアリテ後日会社ニ不都合ノ出来スル事アラハ是ヲ之レ智ナリト云ヲ得ルカ、今マ起業会ヲ廢セラル、トキハ是ヲ之レ信ナリト云ヲ得ルカ、且起業会ヲ廢シ復タ士族就業ノ時機ナク而シテ士族ノ妻子ヲメ飢餓ニ泣カシムルカ如キアラハ是ヲ之レ仁ナリト云ヲ得ルカ、閣下ハ仁アリ信アリ且智アリ、決シテ斯ノ如キノ失挙ナキヲ知ルナリ、書シテ此ノ所ニ至リ將ニ筆ヲ擱カント欲スルニ際シ遇マ友人ノ来リ告クル者アリ、曰ク鉄道施設ノ業務ハ凡テ鉄道局ヘ委任セラル、事ニ決定シタリト、昭太郎以為ク鉄道局ヘ委任セラル、ハ至極良善ノ策ニアラスト雖トモ是モ亦タ一策ナリ、故ニ若シ此議ニ決セラレタリト云フ言ヲメ信ナラシメハ後タ左右ノ言ニ因リ他策ニ出ルナク確乎トシテ動く事ナカラシム事ヲ乞フ、昭太郎言ヲ閣下ニ呈セン欲シテ止ム者三度ヒ、而シテ遂ニ微衷止ニ堪ヘサル者アリ、是ヲ以テ狂愚ヲ顧ミス敢テ鄙意ヲ陳ス、閣下参考ノ一助トモナル事アラハ幸甚、誠恐頓首

明治十四年九月十六日

士族 神尾 直侯 長男

神尾 昭太郎 百拜 ㊦

従四位 前田 利嗣 公 閣下

4 明治14年9月24日 浅井成章、起業会解散に付き建議

尊長閣下ニ伏テ卑言ノ甚キヲ上陳ス、目下旧御藩士活路ノ幾分ヲ御補助ノ点ヨリ起業御発会ヲ御決定アリト拝承セリ、果シテ然ラハ之

一社会ノ上申御採用ト想像セリ、夫起業タルヤ人根ヲ量リ人和ニ応セサレハ甲ニ可トスルモ乙ニ否トスルハ貴賤ヲ論セス人情ノ通道トス、抑會議ハ一ノ良議ヲ發言ス共、起立ノ多数ヲ得スハ否決スルハ条例ニシテ甲乙相当ノ可決スル亦難シ、加之会場各費若干ニシテ冗費ノ甚キ眼前トセン、正ニ會議議會ノ如キハ外聞上ノ有名ニシテ実裁上ノ無実ニ近シ、今既ニ慈仁ノ厚キヲ汲ム時ハ人根適宜ニ授産勸奨スルノ他ナカラシヤ、依テ以該会設立ヲ閉テ親シク御主意ノ貫徹スヘキ良法ヲ飽迄希望ス、就テハ成章才ニ乏ク知ニ疎キト雖、井蛙ノ管見ヲ慎テ足下ニ一言セン、足下一見シテ本意ヲ悟リ何レノ日カ之ヲ言上スルニ至ラハ拊賀シテ止マス、情ラ惟ミルニ士ノ窮ナル亦忍スト雖、一時ノ勢ヒ乗シ社会々々ノ上申ヲ是トセハ莫大ノ資金ニシテ成章歎クヘキノ近キアリ、何トナレハ数億ノ金額モ多分ノ出金ニ充レハ終ニ一錢ニ乏キノ景況世ニ多シ、之ニ依テ足下以下月給モ年給トナシ年金七百円ヨリ七拾円迄ヲ適宜ニ給与シ冗費一洗スルヲ急務トス、加ル前頭起業モ亦活路補助ノ急ナル大事件ナリキ該件ハ即今本県勸業ヘ士族資金ヲ若干御納メニ相成其課ノ適量ヲ以授業方法ヲ授与スヘキノ場合ヲ得ハ士族ノ大幸ニテ一ハ国家ニ報スルノ道ニ可ヒ遊手ノ士ナク無産ノ士ナキヲ祈万禱セリ

明治十四年九月二十四日

金沢区古藤内町五番地

士族 浅井 成章 ㊦

御家令 村井 恒 殿

5 明治14年11月 赤座孝義ら、前田家々政人事に付き建言

〔表紙〕
建言

〔後筆〕
明治十四年十一月

赤座孝義外七名

建言

御家ノ御基礎不相互ヲ顧慮シ建言

孝義等謹而

御前ニ低頭平身シテ御旧誼ノ厚キヲ仰キ臣タル至情ヲ以微衷陳述仕候、先年以来数々建言等仕来リ候ハ恒始委細承諾罷在候筈ニテ御基礎御地盤ノ事ヲ主張候旨趣ハ百事万端ノ主宰ニシテ所謂衆理ヲ備テ万事ニ応スル道理ニ御坐候、幾度奉建言トモ御左右ノ奸吏ニシテ壅蔽シ加之直接応対ノ際ノ言ト後日ノ返答ト毎ニ違動シ或ハ間違ニ申立、其儀ヲ重テ尋問候ハ、左様不承ラ或ハ左様不申暨ヒ筆談ヲ望ム旨申聞候ニ付、筆談ハ意ヲ不尽趣申候得共、強ク求候故、其求メニ応シ候上ハ又筆談ニテハ難述等々種々様々佞弁シ時日ヲ修シ悪ムヘキノ甚シキモノニシテ如何ニ当世ノ今日ト雖モ難止前陳ノ如ク奸曲壅蔽ク甚敷即今ニ至リテハ孝義等ノ素志慨嘆感位ノ心中 閣下へ微通シ御胸中ニ奉呈度前後左右ヲモ不顧一向ニ拙キ文筆ヲ以至情ノ赤心奉申上候、如今般物議紛擾ノ生スルハ鏡ニ懸テ見ルニ等シクト先年以来建言仕置タル議論ニシテ前見ノ思慮ニ聊違戾不仕、仍テ遺憾爰ニ極リ申候、乍去今更既往ニ遡リ申トモ功ナシトス、事後レナ

カラ社稷ノ臣ト群臣トノ義由情由御感考御塾味ニテ今ニモ御英断ヲ以大号令ヲ垂レ玉ハン事激励シ只管ヲ仰キ切望スル大綱ニシテ誠ニ孝義等ノ精神是ニ止ル而已ニ御坐候、草葉ノ蔭ニテモ奉祈念所ニ他事無御座候、御令扶黜陟ノ際ニシテ名望アルモノ及ヒ派党アルモノ御採用ニ相成ル共、改化ノ今日ニシテハ深く御斟酌委ク御思召不被為配テハ今般ノ如ク始テ元ノ御領地江御臨駕ニテ御情誼ノ厚キヲ御思召御取扱多クノ御物入モ乍被為遊種々ノ物議生レ候ハ何ソ民心ニ不適七儀可有御座何タル事由ニ御坐候、御感味ヲ奉仰候、是等ニ付、爰ニ一事陳述仕候、平野仙次郎ノ如キハ実ニ確認仕候極妄大奸ニ付、速ニ陟ケラレン事、御急務 奉存候、当節ニテハ一度方向ヲ誤ラハ如何ントモスルノ術可無カル世態ト涕位ニ不堪ル所ニ御坐候故、将来ニ好機会モ可有御座候哉ト火勢ノ盛ナルニ消坊ノ術ナシト目今ハ泪ヲ内ニ流シ徒ニ口ヲ閉シ申候、誠恐誠惶頓首再拜謹言敬白

明治十四年十一月

赤座 孝義 ㊦
赤座 孝一 ㊦
永井 正興 ㊦
赤座 孝清 ㊦
赤座 孝彝 ㊦
赤座 孝諧 ㊦
赤座 孝道 ㊦
赤座 孝行 ㊦
赤座 他四郎 ㊦

6 明治14年11月15日 浅井成章、前田家々政改革に付き建議

建議

慎テ井蛙ノ見ヲ閣下ニ上申シ公明活眼ヲ仰キテ何分ノ良議ヲ希望ス、今ヤ御臨臆ヲ幸ニ旧臣御家治ノ全キヲ量テ□ノ見込ヲ奉リ甲ニ主張シ乙ニ主唱スルノ風聞耳ニ蓋ケルノ暇マヲ得ス、果シテ甲乙二スモ乙ニ倒レ乙ニ量ルモ甲ニ破ルノ事情ハ人生ノ通道ニシテ甲乙一得一失十全ヲ得サレハナリ、然レハ令□□非ノ論議シ尊聞ヲ仰キシト雖、公議ヲ尽サスハ朝ノ是モ夕ニ非トナルノ事件世ニ多シ、加之多端ノ際、可ヲ非トシ否ヲ是トスルノ如キハ自然ノ愚解ニシテ亦ナキニシ非スヤ保証スル能ス、就テハ旧八家ハ勿論重ク在勤セシ老練ノ旧臣八名ヲ首撰シテ以御内家議者ト称セン、該事務タルヤ連月一・六ノ日ヲ式日トシ金沢御邸へ出頭シテ御下ニ尊答スルノ集議ヲ要ス、尤無給ニシ□年未少シク慰勞ヲ下給リ御家治ノ全キヲ千祈万禱

明治十四年十一月十五日

金沢区古藤町五番地

士族 浅井 成章 ㊦

7 明治14年12月 畠山義比、前田家々改革に付き建白書

〔表紙〕
〔後巻〕
明治十四年十二月

建白書

畠山 義比 一

畠山義比

誠恐誠惶謹テ書ヲ 從四位公闕下ニ奉ル、臣先年乏ヲ承ケ家從ヲ辱フセシトキ進ンテ言ヘル事アリ、闕下金沢ヲ去ツテヨリ旧藩士民警効ヲ奉セサル事久シ、諺ニ言フ、去ル者ハ日ニ疎シト、当時国人闕下何ノ状タルヲ知ラス、之ニ因リ闕下閑暇ノ時高車ヲ故国ニ枉ケラレ恩誼ヲ益々厚フシ其渴望ヲ医スヘシ、夫レ旧臣民闕下ノ降臨ヲ待ツヤ雲霓畜ナラス、若シ車轍三州ノ地ニ至ラハ老幼手ヲ携ヘテ路ニ迎ヘ士女衽ヲ連子袂ヲ拳テ歎声市ニ湧ン、然リ而シテ臣故山ニ歸リ茲ニ七秋ヲ経タリ、臣日々首ヲ引キ画熊ノ来ルヲ待ツ、幸ナルカナ今年高車北地ニ至ルノ報アリ、臣之ヲ聞キ手ノ舞ヒ足ノ踏ヲ知ラス、尋テ鉄道架設ノ令アリ、是ニ於テ其盛挙ヲ賛スル者アリ、其非挙ヲ駁スル者アリテ稍ヤ物議ヲ生シ県下騷然壯士相睥睨スルノ色アリ、臣私カニ之ヲ憂フ、既ニシテ画熊金沢ニ至ル未タ車ヲ下タラスシテ士族起業ノ建議アリ、其令未タ出サル内チ忽チ鉄道委員ノ葛藤ヲ生シ御家政改革ノ上申等四方雲集シ闕下事務多端或ハ寢ニ就ク能ハス、臣其事ヲ聞ク毎ニ且ツ恐レ且ツ愕キ手足措ク所ヲ知ラス、朝ニハ有志者ニ諮リ夕ニハ門閤ニ詢ヒ以テ百方謀ル所アリト雖モ其事皆行ハレス、臣不学無術一箇ノ魯鈍漢如何トモスル能ハス、空シク思フ焦シ徒タニ日子ヲ閱ルノミ、頃日復タト一亭ノ騷動ヲ聞ク、蓋シ此ニ挙動タルヤ其因ツテ来ル処深シ、早ク之レヲ調停スル者アラ

サレハ其争気容易ニ鎮靜セサルヘシ、畜ニ鎮靜セサルノミナラス、恐ラクハ御家名へ影響ヲ及スモ亦知ルヘカラス、之臣カ実ニ枕ヲ高フシテ眠ラサル処ナリ、吁臣ハ県下ノ愚者ナリ、吁臣ハ闕下ノ罪人ナリ、何ントナレハ臣掌テ闕下ノ降臨ヲ請フ、而シテ車駕既ニ至ルニ及ンテ異言喧惑苦情百出遂ニ闕下ノ煩勞ヲ致ス、臣之ヲ梶テ一ツモ献替スル事能ハサレハナリ、臣恐懼何ノ顔セアツテ御前ニ咫尺ノ事ヲ得ンヤ、然リト雖モ思フ所ヲ言ハサルハ不忠ナリ、因テ拙劣ヲ顧ミス敢テ尊嚴ヲ犯流シテ建言セントス、夫レ禍ハ起ルニ日ニ起ルニ非ス、必ス因アリ、今日ノ紛議其因ツテ来ル処ヤ深且ツ遠シ、請フ其略ヲ言ハン、抑是迄ノ御令扶其人トナリハ得テ知ラスト雖モ概シテ之ヲ言ヘハ人望ヲ失シタル者ナリ、此人望ナキ者御家政ヲ執ルニヨリ誹謗路ニ満チ為メニ公家へ波及ス、臣掌テ側カニ聞ク、先年某々ノ輩上京シテ士族興産起業ノ事ヲ情願セシニ闕下慈眼ヲ垂レ速ニ其言ヲ容ラレ昨年優僱ナル恩諭ヲ士族一同へ賜ヒ起業会ヲ開キテ事業ヲ撰定セシム、而シテ今年ニ至リ鉄道架設ノ議起リ故ヲ以テ起業会ヲ廢シ該事ニ尽力スヘシト、然ルニ起業会廢スヘカラサルノ論起リ喋々建言止マス、之ニヨリ闕下亦其言ヲ容レ既ニ議員ヲ撰挙アリタリ、此ニ於テ闕下鉄道二起業ニ巨万金ヲ抛チ剩ハ百有余里ヲ遠シトセス、尚東西ニ駕ヲ馳セテ事業ノ成功ヲ謀リ以テ士民ノ困世苦界ヲ軫シテ楽国安地トナサシメントス、嗚呼闕下ノ至仁ナル苟モ人心アル者ハ感涙袖ヲ濡シ感拝地ニ伏スヘキナリ、然ルニ泣カスシテ却テ怒リ伏サスシテ却ツテ起チ満県嗷々タルハ抑何事ソヤ、其源儘有リト雖モ御令扶ノ所置其宜ヲ得ス、人心ニ背戾スル処アルモノ

之レ其一大原素タルヤ明ケシ、之レ臣カ其因ツテ来ル処深且ツ遠シト云フ所以ナリ、闕下英明斯ニ見ル所アリテ寺西成器ヲ黜ケ加藤恒・本多衛生養ヲ挙ケ尚且米山道生等三名ノ者ヲシテ御家扶心得ニ充テラレタリ、此ニ於テ復タ一ノ新擾起リ道路囂々人心恟々遂ニ腕力ヲ試ムルニ至ル、即チ森下馱ノ粗暴・ト一亭ノ騒動之ナリ、嗚呼近年御令扶ノ黜陟ニツイテ常ニ紛騷ヲ免レサルハ何ソヤ、臣細心之ヲ考フルニ御令扶大凡朋党ヲ以テ進退スレハナリ、是故ニ甲進メハ乙背ヲ裂キ丙用井ラレハ丁冷笑ス、夫レ朋党ハ古今有ル処ナリ、而シテ朋党能ク国ヲ治メ又能ク国ヲ乱ル、一家モ亦然リ、是レ朋党ニ君子・小人ノ別アレハナリ、然ルニ之ヲ見別ツ事、実ニ難シ、故ヲ以テ古ヨリ朋党ヲ恐レ人君之ヲ用井ス、今闕下朋党ノ言ヲ用井ス唯正議之ヲ行ヒ玉ハ々物議忽チ消散シ御家政清肅セン、依テ試ニ朋党ニ瞞セラレサルノ策ヲ上陳センニ他ナシ、博ク聞キ衆ニ問フヨリ外ナシ、其博ク聞キ衆ニ問フトハ人々ニ聞キ戸々トニ問フニアラス、茲ニ門閥ト名望アル者及ヒ博識ノ人は是ノ三様ノ者式拾名乃至三拾名ヲ聚メテ議衆トナシ年給五拾兩斗リヲ与フ人撰方ヲ初メ稍ヤ重事ニ属スルモノハ一切ニ諮詢シ而シテ御令扶ノ意見トヲ照比シ闕下其衷ヲ採リテ之ヲ實地ニ施シ玉ハ々人撰ハ公平ニ帰シ財政モ闕出ノ憂ヒナク事々物々其宜キヲ得テ人心自ツカラ安堵スヘケン、蓋ソソ少シノ煩冗ヲ厭フテ此良法ヲ設ケ玉ハサル、且ツ此議衆タルヤ幾年モ置ント云フニハアラス、之ヲ止ムルニ期アリ、則チ朋党ノ弊習一洗シ紛議激論消散スルノ日ヲ俟ツテ解散スルナリ、之レ臣カ目下ノ景状ヲ察シ切ニ祈り求ムル所ナリ、伏シテ希フ高明之ヲ諒セラレヨ、臣義比死罪死罪

頓首拜啓

明治十四年十二月

8 明治十四年十二月5日 吉田泉河造ら、起業会委員を設くるの議

起業会委員ヲ設クルノ議

泉河造等頓首百拜凡ソ物ハ其始メ如何ニ因テ消長ス 閣下畏キニ起ス処ノ起業会ノ如キモ亦其始メノ不完全ナルニ因テ今日ノ現状ヲ呈出セリ、即チ本年月該會議員ノ改選其当ヲ失スルヨリ物論紛起或ハ其不正ヲ鳴ラシテ閣下ノ門ニ迫リ以テ更ニ改撰ヲ要求スルモノアリ、或ハ特命議員ヲ撰ンテ議會ノ權衡ヲ得ント図ルモノアリ、之レ該会ノ議員ハ大約朋党比周ノ徒ヲ以テ組織シ世態ノ風潮ヲ問ハス、輿論ノ在ル処ヲ捨テ、只自己ノ利益ヲ之レ謀ルヲ以テ吾党士族ノ反動激昂ヲ招クノ具トナル事ヲ憂ヒ因テ彼ノ特命議員ヲ置テ其等ヲ得ント欲スルモノナラン、又タ斯ノ如キ異身同意ノ者ノミ今回ノ議員トナルハ詭術奸策ヲ行ヒ老幼婦女子ヲ欺キ以テ多数ノ投票点ヲ得タルモノニシテ決シテ吾党士族ノ信スル処ノ人ニ非ス、斯ノ如キ不正ノ議員ヲ改撰スルハ則自己ノ權利ヲ重シ且閣下ノ榮譽ヲシテ為メニ失墜スルニ至ルヲ慮リ乃チ正理ニ因リテ一黨組織ノ議員ヲ廢壞シ真正ノ議會ヲ立テン事ヲ欲ス、以上二説ノ中ニ就テ泉河造等ハ固ヨ□正理ニ從ヒ今日ノ議員ヲ改撰スルハ最モ好ム所ナリト雖、回想スレハ又特命議員ヲ置クノ議モ蓋シ其謂ナキニ非ス、即チ今回ノ議員撰挙ハ閣下カ之ヲ指定セラレシモノナルニ依リ假令其間ニ於テ不正ノ事アルモ今遽カニ之ヲ改撰セハ為メニ世人ニ信ヲ失フアラン事ヲ

恐レ而シテ又現時ノ議會ヲ維持セントセハ多数士族ノ不滿ヲ招クニ因ツテ該会ノ規則ニ準シテ此特命議員ヲ置キ一挙シテ兩得ヲ収メン事ヲ欲スルナリ、故ニ此議ニ於テモ強ヒテ非難スヘキモノニ非ス、然レトモ事ノ今日斯ノ如キ困難ニ陥ルモノハ一朝夕ノ故ニ非ス、即チ議會創立ノ時業已ニ胚胎シ而シテ一頓以テ茲ニ到リシ者ナリ、吁曩ニ該会担理ノ委員ヲ設ケ其興廢得失ヲ負ハシメ置カハ何ソ吾党士族ハ今日此ノ憂愁ノ間ニ浮沈セン、夫レ該会ニ於テ委員ヲ置ク事已ニ二回、然レトモ之レ皆議員撰挙ノ一事ニ止リ敢テ興廢ト得失ニ益ナキナリ、而シテ之レカ存亡ハ閣下カ家令・家扶ノ手裏ニアリテ令扶ハ各自ノ所見ニ因テ之レヲ裁制ス、故ニ事悉ク左抵右措徒二年月ヲ費シ三十余旬ノ時日ヲ経ルモ未タ一業一物ノ決議セシモノ非ス、甚シキハ令扶其人ニ非サル鉄道委員ニシテ叩リニ之レニ干涉シ該会ノ活機ヲシテ尚ホ一層ノ遲緩ヲ催カサシタリ、吁鉄道ノ架設ハ固ヨリ閣下ノ發起スル所ニシテ其委員ハ即チ閣下ノ命スル処ナリト雖、該委員ニシテ敢テ閣下ノ家事ニ關係スヘキノ權□アルニ非ス、然ルニ喙ヲ議會ノ間ニ挾ムハ果シテ何事ソ、議會□鉄道架設ハ異性別類ノ者ニシテ決シテ鉄道委員ノ干涉スヘキモノニ非ス、該委員ハ自己ノ職掌ヲ効シテ事必ニ終フヘキニ吾党士族ト閣下トノ間ニ成立セシ議會ニモ干涉スルトハ自カラ其職ヲ越ヘテ令扶ノ分ヲ犯スト謂フヘシ、若シ鉄道委員其人ニシテ起業ノ業ニ周施セント欲セハ須ラク吾党士族ノ位置ニ復シ以テ相共ニ之レカ得失ヲ議スヘキナリ、然ルヲ委員ノ職ニ居リナカラ議會ノ境域ニ浸入スルノハ豈ニ不都合ノ至リナラスヤ、議會ハ決シテ斯ノ如キ干涉ヲ受クヘキ者ニ非サルナリ、

該委員モ亦議會ニ喙ヲ容ル、ノ權利ナキ者ナリ、夫レ權利ナキ者ノ之レニ交リ受クヘカラサルノ掣肘ヲ受クルニ至ルハ抑モ何ソヤ、職トシテ議會委員ノ設ナキノ罪ノミ、若シ已ニ委員ノ在ルアラハ焉ンソ他人ヲシテ恣ニ我境域ヲ蹂躪セシメン、然ラハ今日ノ如キ困難モ決シテ現出セサルハ臬漚道等信シテ疑ハサル処ナリ、然レトモ既往ハ之レヲ咎ムルモ益ナシ、故ニ閣下若シ議會ヲシテ起業ノ美果ヲ得シト欲セハ速ニ委員ヲ置キテ議會ノ事務ヲ總理セシムヘシ、是レヲ人体ニ譬フレハ委員ハ其精神ニシテ活動ノ機能ハ精神之有無ニアリ、四支髮膚既ニ備具スルト雖トモ精神ナクンハ焉ンソ靈妙ノ活動アルヲ得ンヤ、今ニシテ尚委員ヲ設ケサレハ假令幸ニ改選ノ紛議ヲ解ク事ヲ得ルモ別ニ如何ナル困難ヲ現出スルモ計ルヘカラス、故ニ至急議會ニ委員ヲ設ケ以テ之レカ整理ヲ図ルヘシ、一タヒ委員ヲ設置スルトキハ今日ノ困難モ亦瞬時ニシテ煙散霧消スルハ臬漚道等ノ飽クマテモ信スル処ナリ、故ニ目下世人ノ意志ニ拘ハラス即チ選舉更正ト特命委員ノ設置トノ利害ヲ捨テ、謹ンテ別ニ陋見ヲ開陳シ以テ議會委員ノ設置ヲ希望ス、若シ採納ヲ得ハ其人及ヒ設置ノ方法等親シク咫尺ヲ以テ面陳セン、乞フ閣下天資ノ綽明ニ因リテ断シテ委員其職ヲ置カレン事ヲ臬漚道等頓首百拜懇願ニ堪ヘス

明治十四年十二月五日

旧金沢藩士族
吉田 臬漚道
同 大久保 菊太郎
同 金岩 虎吉

從四位 前田 利嗣

公閣下

同 関 時政

9 明治14年12月28日 安井義礼、起業会組織改革の建議

〔表紙〕 起業会組織改革之建議

〔後紙〕 明治十四年十二月

安井義礼建議

起業会ノ組織改革ノ建議

旧臣義礼頓首再拜謹テ議ヲ 從四位利嗣公閣下ニ上陳ス、伏テ惟ルニ吾同族起業会ノ興ルヤ 閣下情誼ノ厚キト慈仁ノ深キトニヨリ旧藩士族ノ生計日ニ窘縮シ家道漸ク衰憊スルヲ憂慮セラレ昨明治十三年七月ヲ以テ優渥懇到ノ告諭ヲ賜リ尋テ協謀熟議ノ手續キ即チ起業会規則ヲ付与セラル、実ニ 閣下ノ誠意深且切ナリ、其洪恩ノ厚キ山海モ畜ナラス、吾同族ニ於テハ豈ニ銘肝奮起セサル者アランヤ、然ルニ其洪恩ノ厚キニ対シ未タ万分ノ一タモ報スル能ハサルハ深ク自ラ慙愧ニ堪ヘサル処ナリ、然リ而シテ今 閣下嘗テ製定セラレタル起業会ノ組織ニ対シ之ヲ是非シ之ヲ論議スルハ踰越ノ罪、実ニ恐怖ノ至ニ堪ヘスト雖トモ黙シテ言ハサレハ不忠ノ罪、亦シテ逃カレ、所ナシ、如何セン其衷情自ラ止マント欲シテ止ム能ハス、抑ヘント欲シテ抑ユル能ハス、故ニ踰越ノ罪、恐怖ノ至ヲ顧ミス敢テ鄙

見ヲ陳述シテ以テ現行起業会組織ノ是非ヲ論シ併テ之レカ改革ノ事ヲ建議ス

抑モ現行吾同族ノ起業会タルヤ昨十三年七月 閣下賜フ処ノ告諭ハ輒チ任他主義ニシテ毫モ干渉スル処ナシ、而シテ其組織ニ於テ大千渉スル処アリト云ハサルヲ得ス、何トナレハ該会ノ規則ハ総テ補助者ニ於テ製定スル処ニシテ起業者ニ於テハ毫モ啄^{ウツク}ヲ容ル、能ハサルモノアレハナリ、而シテ其規則中第三条補助者ニ於テ認可ノ事及ヒ第十一条特撰議員ヲ設クル事、第十五条特撰ヲ以テ撰挙会ノ委員ヲ設クル事、第二十九条補助者ノ見込ヲ以テ議會ヲ開閉スル事、右条項ノ如キハ所謂干渉組織ニシテ幾分カ後來ノ患害ヲ含有スルモノナリト憂慮セサルヲ得ス、蓋シ此ノ干渉組織タル当初実ニ万止ムヲ得サルニ出ツルモノアルヘシ、然リト雖トモ其干渉組織ノ不是ナル閣下嘗テ賜フ処ノ告諭ノ主義ニ矛盾シ且ツ道理ニ因テ之ヲ論セハ起業ハ則起業者ノ自ラ任スル業務ニシテ補助者ノ業務ニ非サルハ固ヨリ贅弁ヲ俟タサルナリ、夫レ然リ然ハ則チ其業務ヲ自任スル者□隨テ其全權ヲ有セサルヘカラス、既ニ其全權ヲ有スルモノトセハ又隨テ其責任ヲ負担セサルヘカラス、而シテ今其有スヘキノ全權ヲ有セス、又其負担スヘキノ責任ヲ負担セス、他ニ任放シテ顧ミサルトキハ密ニ道理ニ背クノミナラス自營ノ精神ヲ失ヒ進取ノ氣力ヲ亡ナフモノナリト云ハサルヲ得ス、既ニ自營ノ精神ヲ失ヒ進取ノ氣力ヲ亡フトキハ何ヲ以テカ事業ヲ興起シ何ヲ以テカ国家ヲ隆盛ニシ吾同族ノ衰頹ヲ挽回スルヲ得ヘケンヤ、故ニ万般ノ事自任スル処アル者ハ必ス自營ノ精神ヲ發達シ進取ノ氣力ヲ養成セスンハアル可ラサル

モノナリ、是レ其干渉組織ノ不可ナル第一義ナリ、既ニ道理ニ於テ干渉組織ノ不可ナルヲ論シタレハ又一歩ヲ轉シテ目下ノ情況ニ就テ干渉組織ノ不可ナルヲ論セン、夫レ起業会ノ起ル昨十三年七月 閣下賜フ処ノ告諭ニ基^ニ因シ爾來在在十有八ヶ月ヲ經過セシモ猶未タ其結果ヲ見ルニ至ラス、其間タ或ハ中止或ハ継続或ハ議員ノ改撰等其ノ時々一モ紛議ヲ生セサルハナシ、是レ蓋シ多數一万余ノ士族中或ハ誤解ノ点ヨリ發セシモノアルヘシト雖トモ抑モ亦不平不滿ノ点ヨリ發セシモノナキヲ保シ難シ、而シテ其紛議ノ一タヒ生スルニ當テヤ奮ニ同族相軋^{ウツク}スルノミナラス事情切迫動モスレハ 閣下ニ對シ奉リ不平不滿ヲ鳴ラシ或ハ不正不当ヲ陳シ之ヲ哀訴歎願シテ息マサルニ至ル、是レ蓋シ干渉ノ一点アルカ為メニ自カ□奮志振勵スルニ由ナキ故ニ非ス耶、目下ノ情況業已ニ斯ノ如シ、是ニ由テ將來ヲ憂慮スルニ若シ干渉組織ヲ保守シテ起業ノ運ヒニ就カハ恐クハ不平不滿ヲ鳴ラスノ徒ヲシテ満足セシムル能ハス、隨テ哀訴歎願スルノ徒必ス跡ヲ接シテ至ラン、奮ニ哀訴歎願スルノ徒其跡ヲ接シテ至ルノミナラス或ハ一日ヨリ増加スルモ謀リ知ルヘカラス、既ニ彼ノ徒ノ増加スルモ謀リ知ルヘカラサレハ隨テ其勢力竟ニ制シ難キニ至ランモ知ルヘカラス、凡ソ天下ノ事小ヨリシテ大二延ムハ理勢ノ然ラシムル処、一隅ノ紛擾ヨリシテ汎ク天下ノ變動ヲ起スニ至ルハ古來其例少ナカラス、豈ニ懼レテ深ク察セサルヘケンヤ、是ニ由テ之ヲ視レハ彼ノ干渉組織ノ為メニ^{(ニル)説カ} 閣下ノ清聽ヲ煩シ奉リ殆ト云フヘカラサルノ困難ヲ惹起スモ謀リ知ルヘカラサルナリ、是レ其干渉組織ノ不可ナル第二義ナリ

既ニ論シタル如ク干涉組織ノ不可ナルハ道理ノ点ニ於テモ又情況ノ点ニ於テモ其不可ナルコト明々白々ナレハ更ニ転シテ此干涉組織ヲ廢シ他ニ之ヲ任放スルノ時機ヲ論セン、目下士族ノ氣向ヲ察スルニ压制ヲ惡テ自由ヲ貴ヒ干涉ヲ厭フテ自營ヲ好ムモノ、如シ、此ノ時ニ方テヤ彼ノ厭フ処ノ干涉ヲ施シ其ノ好ム処ノ自營ニ任放セサルトキハ將タ何ノ時ヲ待テ其自立ヲ期スルヲ得ヘケンヤ、凡ソ事々物々時機ヲ得テ成リ時機ヲ失フテ成ラサルハ天下ノ通勢ナリ、然ルニ今此ノ任放スヘキ時機ノ失フテ他日云フヘカラサルノ困難ヲ惹起シタル時ニ際シ俄ニ之ヲ任放セント欲スルモ豈ニ能ク得ヘケンヤ、今ヤ時機既ニ熟セリ、優々不斷進止踟躕シテ一步ヲ誤ラハ竟ニ救フヘカラサルニ陥ルモ知ルヘカラサス、故ニ断然干涉組織ヲ廢シテ士族ノ自營ニ任放セサルヘカラサルナリ

既ニ干涉組織ヲ廢シ士族ノ自營ニ任放スヘキノ時機ヲ論シタルハ又茲ニ之ヲ任放スルノ方法ヲ論セサルヘケンヤ、今ヤ之ヲ任放スルノ方法ハ即チ条ヲ逐テ左ニ掲ケン

第一条 起業会ノ組織ヲ改メ從來資金補助者ノ干涉ヲ廢シ起業ノ全

權責任ヲ總テ旧金沢藩士族ニ任スルモノトス

第二条 前条ニヨリ現行起業会ノ規則ヲ廢シ該会ノ規則ハ勿論、事業其他、該会ニ関スル一切ノ事務ハ總テ士族ノ便宜ニヨリ其方法等取設クルモノトス

第三条 国産ヲ増殖スルノ事業ニ限り資金ヲ補助スルモノトス、其金額總計幾許ニシテ何ケ年(或ハ何年度或ハ事業実施ノ際トカ)ニ下付スルモノトス(其下付スヘキ期節ヲ明示ス)

第四条 起業会ニ関スル一切ノ費用ハ起業者(即チ士族)ニ於テ負担シ

補助者ニ於テハ一切支弁セサルモノトス

但便宜起業者ノ請求ニヨリ第三条ノ補助金ノ内ヲ以テ其都度下付スヘキモノトス

第五条 第二条ニヨリ起業会規則ヲ編成スルノ前ニ於テ会同ノ手續

キヲ草定スル為メ会同事務委員ヲ設クルモノトス

第六条 前条会同事務委員ヲ設クルハ第一回即チ初度ニ限り特撰ヲ

以テ之ヲ設クルモノトス

第七条 会同事務委員ハ会同事務ノ全權ヲ有シ總テ其責ニ任ス

第八条 会同事務委員ハ会同ノ手續ヲ草定シ規則編成委員公撰ノ事務ヲ完結シテ解任スルモノトス

務ヲ完結シテ解任スルモノトス

第九条 第六条ニヨリ会同事務委員ヲ設クルニ就テハ参考ノ為メ其

人員及ヒ姓名何月何日迄ニ誠精書出スヘシ

右第一条ヨリ第九条ニ至ルモノハ之ヲ任放スル方法ノ大要ナリ、中ニ就テ第六条ノ会同事務委員ヲ設クル方法ノ如キハ少シク干涉スルカ如クナレトモ今漠然之ヲ任放シテ毫モ会合ノ道ナキトキハ一万余ノ士族悉ク会合スル能ハサルハ勿論ナリ、然リ而シテ此ノ多数ノ余ノ士族悉ク会合スル能ハサルハ勿論ナリ、然リ而シテ此ノ多数ノ士族ニ於テ各自会合ノ方法ヲ設ケント欲スルモ實ニ容易ニ纏マルヘキニ非ス、舊ニ纏マルヘキニ非サルノミナラス或ハ竟ニ東西ニ彷徨シテ其帰着スル処ヲ知ラサルニ至ラン、若シ其レ斯ノ如キニ至ラハ為メニ一大困難ヲ牽出スルハ必然ノ勢ナリ、故ニ万止ムヲ得ス此ノ条ヲ設ケテ会合ノ端緒ヲ開キ其困難ナカラシメンヲ要スルノミ業已ニ論シタル如ク起業会干涉組織ノ不可ナルハ道理ニ因テ論スル

モ目下ノ情況ニ就テ論スルモ到底其干涉ヲ廢セサルヘカラサルハ理
ノ尤モ觀易キモノナリ、又前ニ論セシ如ク之ヲ任放スルノ時機既ニ
熟セリ、且之ヲ任放スルノ方法□ホ備ハレリ、今ニシテ之ヲ任放セ
スンハ將タ何レノ時ニ任放スルノ機アラシヤ、畜ニ之ヲ任放スルノ
時機ヲ失フノミナラス其干涉組織ノ為メニ將來 閣下ニ對シ奉リ恐
クハ一層甚シキ困難ヲ呈スルモノアルニ至ルヤモ謀リ知ルヘカラ
ス、是レ蓋シ既往ニ徴シ且目下ノ情況ヲ熟察シテ深ク憂慮ニ堪ヘサ
ル処ナリ、今茲ニ本論ヲ完ルニ臨ミ一言以テ其局ヲ結ハントス、凡
ソ社会ノ困難ヲ生スルヤ生スルノ日ニ生スルモノニ非ス、必スヤ之
レカ起因スル処アリ、故ニ天ノ未タ陰雨セサルニ及ンテ牖戸ヲ網繆
スト、豈ニ深ク慮カラサル可ケンヤ、是レ旧臣義礼ノ衷情黙シテ止
ム能ハス、抑テ息ム能ハス、踰越ノ罪、恐怖ノ至ヲ顧ミス敢テ鄙見
ヲ陳述シテ以テ現行起業會組織ノ是非ヲ論シ併テ之カ改革ノ事ヲ建
議ス、伏テ冀クハ 閣下ノ英明果斷ヲ以テ採納アラン事ヲ、誠恐誠
惶頓首再拜

明治十四年十二月廿八日

石川県金沢区玄蕃町二番丁四番地 士族

旧臣 安井 義礼 ㊞

従四位 前田 利嗣 公
閣下

(おくだ はるき 金沢大学教育学部教授)